

今回は、学習障害・限局性学習症(LD・SLD)についての講義とグループワークを行いました。

「学習障害」という言葉は、「発達障害」と同じくよく耳にする言葉です。メディア等で世界的な著名人が「学習障害」であることを報道されたことで馴染みのある方も多いと思います。

我々、児童発達支援・放課後等デイサービス事業所の職員にとっては、未就学から高校生までの子どもたちの支援を行う上で、「学習」「勉強」「宿題」などは避けて通れないポイントです。そのため、「学習障害」についても子どもたちの状況を踏まえて身近に感じる人が多いものです。

しかし、それじゃ「学習障害」について具体的に把握しているかという、何となく「字が上手に読めない・書けない」「計算が苦手」かな？という程度です。

そこで今回の職員研修では、

- 「学習障害」とは？
- 「学習障害」の具体的な症状
- 「学習障害」の診断基準
- ICT 支援ツール
- 宿題場面などで使える支援の工夫や道具

などを具体的に学んでいきました。

また、後半はグループに別れ、現在はこでみの事業所を利用している子どもたちの「学習」や「宿題」における躓きや苦手さを具体的にピックアップし、それに対する配慮や支援方法を話し合っていました。

「学習障害」は、子どもそれぞれの特性によって多種多様な症状が存在します。したがって、対応方法も多種多様でなければいけません。

そのためには、支援者側が、「学習障害」についての正しい知識を持ち、大雑把に捉えるのではなく、一人一人の状態に合わせた具体的な対応を身につける必要があります。

今回の研修で学んだことを生かして、「学習」や「宿題」に苦手さを抱える子どもたちへの効果的な支援を行い、子どもたちの意欲ややる気を伸ばしていきます。

